# 価値創造のための戦略

富士フイルムグループは、事業活動を通じて「新たな価値」を創造することで、社会課題の解決に取り組み、サステナブル社会の実現に貢献していくことを目指し、2017年度からCSR計画「Sustainable Value Plan 2030(SVP2030)」と中期経営計画「VISION2019」の達成にグループ全体で取り組んでいます。
「SVP2030」は、2030年度をゴールとする「持続可能な開発目標SDGs(Sustainable Development Goals)」に沿ったもので、長期的に富士フイルムグループが目指す姿を示したものです。そして、「VISION2019」は、「SVP2030」で掲げた目標を達成するための具体的なアクションプランです。強靭な経営基盤から生み出す利益を効率的に活用して充実させた事業ポートフォリオを、各事業のさらなる深化でより強固なものとし、事業を通じて社会課題の解決に貢献していくことで持続的な成長を実現します。

## CSR計画「Sustainable Value Plan 2030」

富士フイルムグループは、これまでも社会課題の解決を事業成長の機会ととらえ、新たな価値創出に積極的に取り組むことによって持続可能な社会の発展に貢献することを経営の根幹としてきました。「SVP2030」では、その考えをさらに進化させ、2030年度をゴールとする長期目標を策定、“事業活動を通じて地球規模での社会課題の解決”に貢献していくという当社の強い意志を示しています。

### 富士フイルムグループが取り組むSDGsの重点課題

SDGsなどの社会課題解決に関する目標達成への貢献を目指し、「事業を通じた社会課題の解決」と「事業プロセスにおける環境、社会への配慮」の両面から当社が重点的に取り組む分野として「環境」「健康」「生活」「働き方」の4つを設定。さらに「サプライチェーン」「ガバナンス」の管理強化を加えて重点課題とし、特に「環境」分野では2030年度までに達成する具体的な数値目標を設定しました。

**環境**
自らの環境負荷を削減するとともに環境課題の解決に貢献する

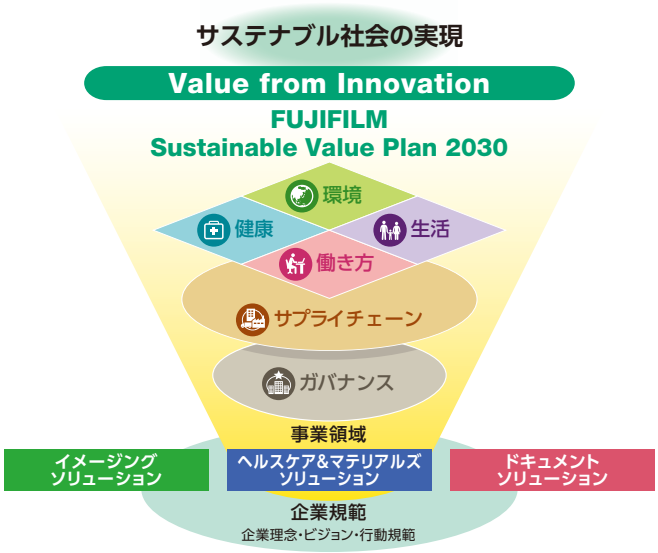
**健康**
ヘルスケアにおける予防・診断・治療プロセスを通じて健康的な社会をつくる

**生活**
生活を取り巻くさまざまな社会インフラをハード、ソフト、マインドの面から支える

**働き方**
自社の働き方変革を、誰もが「働きがい」を得られる社会への変革に発展させる

**サプライチェーン**

**ガバナンス**



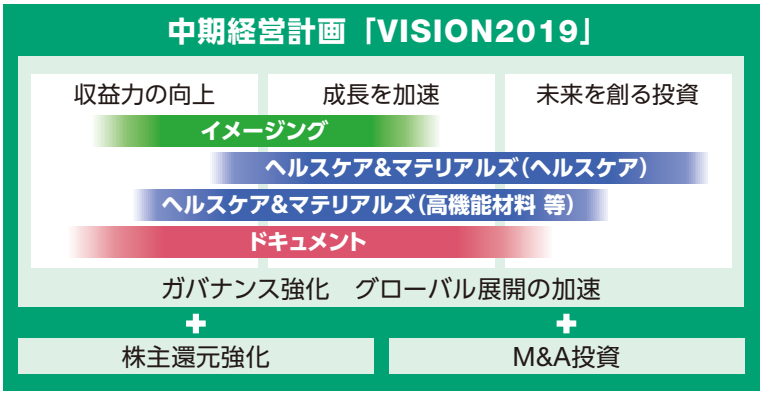

**「環境」における、2030年度までの数値目標**

- 富士フイルムグループによる$CO_2$排出を30%削減(2013年度比)
- 社会での$CO_2$排出削減50百万トンに貢献
- 富士フイルムグループによる水投入量を30%削減(2013年度比)
- 社会での水処理量35百万トン/年に貢献
- 富士フイルムグループによる廃棄物発生量を30%削減(2013年度比)
- 富士フイルムグループによる資源投入原単位を30%改善(2013年度比)

## 中期経営計画「VISION2019」

「VISION2019」では、富士フイルムグループの15の事業を、それぞれの成長段階に合わせ「収益力の向上」「さらなる成長の加速」「未来を創る投資」の3つのステージに位置付けています。各事業のステージを明確化し、「各事業の収益力の向上によるキャッシュの安定的創出」「主要事業の成長加速による売上・利益の拡大」「未来の柱となる収益貢献事業の育成」を推進することで、さらなる飛躍へとつなげていきます。また、海外販売基盤を強固にし、ヘルスケア製品や新規高機能材料などを積極的に海外展開していきます。

株主還元については、2019年度までの3年間で3,000億円(配当1,000億円、自己株式の購入2,000億円)を計画しています。これらにより、2019年度に売上高2兆4,800億円、営業利益2,400億円、ROEの7.5%を達成するとともに、戦略的なM&A投資により、本中期計画を超える成長を実現します。




### マテリアリティ(重点課題)の策定プロセス

下記4つのステップで、「社会からの関心・要請」が高く、かつ「富士フイルムグループにとっての重要性」が高い項目を「マテリアリティ(重点課題)」として抽出しています。

#### STEP 1　基本方針の明確化

2016年度を最終年度として取り組んできた中期CSR計画「SVP2016」におけるCSR活動を振り返るとともに、気候変動への対応等、世界的な潮流を踏まえ、「社会課題解決に向け、グローバル企業として貢献できることを長期視点でとらえ、目指す姿を明示する」ことを、基本的な方針として設定しました。

#### STEP 2　事業戦略を踏まえた社会課題の抽出

ISO26000やGRIガイドラインなどの各種スタンダードに採用された指標や長期視点で取り組むべきパリ協定、SDGsなどから社会課題をリストアップ。また、事業部と協議の上、社会課題解決に貢献する可能性のある技術、製品、サービスの洗い出しを実施しました。

#### STEP 3　重要性評価

「事業を通じた社会課題の解決」と「事業活動により生じる負荷の軽減」の両面からアプローチ、重要性を評価しました。

**(1) 事業を通じた社会課題の解決**

貢献の可能性をもつ富士フイルムグループの技術、製品、サービスと、社会課題をマトリックスに整理。マトリックスから社会課題解決への貢献の可能性と社会に与える影響の大きさを評価し、重点的に取り組むべき社会課題を特定しました。

**(2) 事業活動により生じる負荷の軽減**

抽出した社会課題を社会視点と自社視点の2軸で評価し、5段階でマッピング。
双方で4以上に評価された課題を整理し、6分野15の重点課題として設定しました。

#### STEP 4　計画立案とレビュー・承認

設定した重点課題に対し、各課題を推進する事業会社の関連部門が中心になり、長期目標の進捗を測る指標を検討、地球規模の環境課題については2030年度に向けた数値目標を設定しました。「SVP2030」の重点課題は、CSR委員会(現ESG委員会)にて審議され、決定されました。「SVP2030」の達成に向けて、中期経営計画を立案する3年ごとに見直し、PDCAサイクルを回しながら全社一丸となって活動を推進していきます。

# 価値創造のための戦略

## CSR計画達成に向けた中期経営計画での実施事項

CSR計画「Sustainable Value Plan 2030（SVP2030）」は、2030年度をゴールとする長期CSR計画です。社会課題の解決に向けて、グローバル企業として果たすべき役割を長期的な視点でとらえ、「事業を通じた社会課題の解決」と「事業活動により生じる負荷の軽減」の両面から取り組むことを示しています。

当社が取り組むべき社会課題の抽出にあたっては、ISO26000やGRIガイドラインなどの各種指標からリストアップした約130項目の社会課題に、パリ協定の目標やSDGsの169ターゲットなど、長期視点で取り組むべき社会課題の観点を加えました。さらに、各事業における社会課題解決への貢献可能性についても協議をしています。

そして、この「SVP2030」を実現するための具体的なアクションプランが、3ヵ年の中期経営計画「VISION2019」です。「VISION2019」で定めた目標を達成に向けて、事業の成長を加速することで、事業活動を通じた社会課題の解決に貢献していきます。

本ページでは、「SVP2030」にて定めた重点課題における課題・目標と「VISION2019」のもと事業を通じて実践する活動についてご紹介します。

| | 「Sustainable Value Plan 2030」重点課題と目標 | 「VISION2019」各事業での実施項目 |
|---|---|---|
| 環境 | **1. 気候変動への対応（2013年度比）**<br>(1) 2030年度までに富士フイルムグループによる$CO_2$排出を30%削減<br>(2) 2030年度までに社会での$CO_2$排出削減5,000万トンに貢献 | (2) ●**記録メディア**<br>磁気テープの拡販、データアーカイブサービスの海外展開<br>●**グラフィックシステム**<br>高い環境性能を持つ無処理刷版など高付加価値製品の拡販<br>●**ドキュメント**<br>ソリューションの提供価値の強化 |
| | **2. 資源循環の促進（2013年度比）**<br>(1) 2030年度までに富士フイルムグループによる水投入量を30%削減<br>(2) 2030年までに社会での水処理3,500万トン/年に貢献<br>(3) 2030年度までに富士フイルムグループによる廃棄物発生量を30%削減<br>(4) 2030年度までに富士フイルムグループによる資源投入原単位を30%改善 | (2) ●**グラフィックシステム、インクジェット**<br>高い環境性能を持つ無処理刷版など高付加価値製品の拡販<br>●**産業機材**<br>ミクロフィルターなど高機能製品の拡販 |
| | **3. 脱炭素社会の実現を目指したエネルギー問題への対応** | — |
| | **4. 製品・化学物質の安全確保** | ● **ファインケミカル**<br>競争力ある化成品・試薬の開発 |

| | Sustainable Value Plan 2030 重点課題と目標 | VISION2019 各事業での実施項目 |
|---|---|---|
| 健康 | 1. アンメットメディカルニーズへの対応 | ● **医薬品・バイオCDMO**<br>・アンメットメディカルニーズが高い領域の新薬開発<br>・バイオ医薬品の開発・製造受託拡大<br>● **再生医療**<br>・iPS細胞を用いた再生医療製品の研究開発<br>・培養受託事業拡大、培地事業のグローバル展開<br>・新たな先端バイオ医療（遺伝子治療など）を支える「培地」や生産技術など開発と普及 |
| | 2. 医療サービスへのアクセス向上 | ● **メディカルシステム**<br>・さまざまな診断装置と医療IT、AI技術を組み合わせたソリューションを提案<br>・医療画像データを活用した医療ICTビジネスを推進<br>・新興国ニーズにマッチした製品・サービスを提供 |
| | 3. 疾病の早期発見への貢献 | ● **メディカルシステム**<br>IVD分野を中心とした早期診断システムの開発 |
| | 4. 健康増進、美への貢献 | ● **ライフサイエンス**<br>・生活習慣病予防、エイジングケアなどの市場をターゲットにした機能性表示食品の投入<br>・機能性化粧品「アスタリフト」シリーズなどの拡販 |
| | 5. 健康経営の推進 | — |
| 生活 | 1. 安全、安心な社会づくりへの貢献 | ● **産業機材**<br>社会インフラ画像診断サービス「ひびみっけ」の提供<br>● **記録メディア、電子材料、ディスプレイ材料**<br>高容量磁気テープ、半導体材料などICT社会の発展に貢献する製品・サービスの開発・拡販 |
| | 2. 心の豊かさ、人々のつながりへの貢献 | ● **フォトイメージング、電子映像**<br>思い出をカタチにした写真を楽しむ機会の提供 |
| 働き方 | 1. 働きがいにつながる環境づくり（ソリューション・サービス提供） | ● **ドキュメント**<br>価値提供戦略「Smart Work innovation」による働き方変革支援 |
| | 2. 多様な人材の育成と活用 | — |
| サプライチェーン | 環境・倫理・人権等のCSR基盤をサプライチェーン全体にわたり強化する | 「富士フイルムグループ調達方針」のもと、お取引先と連携しながらサプライチェーン全体を強化する |
| ガバナンス | オープン、フェア、クリアな企業風土のさらなる浸透により、ガバナンス体制を改善・堅持する | 誠実かつ公正な事業活動を通じて、持続的な成長と企業価値の向上を図る |